2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年11月13日

上場会社名	株式会社ペッパーフードサービス		上場取引所　東
コード番号	3053	ＵＲＬ　http://www.pepper-fs.co.jp/	
代表者	（役職名）代表取締役社長　ＣＥＯ	（氏名）一瀬　健作	
問合せ先責任者	（役職名）常務取締役　開発本部長　兼　総務本部長	（氏名）猿山　博人	ＴＥＬ　03(3829)3210
配当支払開始予定日	－		

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	12,201	13.6	203	－	218	－	149	－
2025年12月期第３四半期	10,739	2.9	△91	－	△90	－	△186	－

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	2.43	－
2025年12月期第３四半期	△3.09	－

（注）１．2025年12月期第３四半期の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在しているものの１株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

２．2026年12月期第３四半期の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため記載しておりません。

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	6,126	3,552	57.8
2025年12月期	5,977	3,417	57.1

（参考）自己資本　2026年12月期第３四半期　3,539百万円　2025年12月期　3,413百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2026年12月期	－	0.00	－		
2026年12月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2026年12月期の業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,487	13.3	226	432.5	246	449.1	160	－	2.61

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無
②　①以外の会計方針の変更　　：無
③　会計上の見積りの変更　　：無
④　修正再表示　　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	61,424,000株	2025年12月期	61,424,000株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	220株	2025年12月期	220株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	61,423,780株	2025年12月期３Ｑ	60,536,936株

※　添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料Ｐ．３「１．経営成績等の概況　（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報…… 2
（１）当四半期の経営成績の概況…… 2
（２）当四半期の財政状態の概況…… 3
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 6
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 7
（セグメント情報等の注記） …… 7
（重要な後発事象） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）当四半期の経営成績の概況

当第３四半期累計期間におけるわが国経済は、賃上げの定着による雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の堅調な推移を背景に、持ち直しの動きが見られました。一方、世界経済においては、主要国における金融引き締め政策の長期化や地政学的リスクの高まりなどにより、一部に弱さが見られるものの緩やかな回復が続きました。外食産業におきましては、人流の回復や訪日外国人の増加が追い風となった一方、継続的な物価高に伴う消費者の節約志向、人手不足に伴う人件費の増加、原材料・エネルギー価格の高騰などにより、厳しい事業環境が続いております。

こうした状況のもと、当社は年初より「中期経営計画」を基に、お客様へ安心・安全な商品の提供を最優先課題としながら、新規出店への取り組みや既存店舗のDX化の推進、事業柱の育成に注力いたしました。

既存店の売上対策が奏功したことやデリバリー売上が好調に推移した結果、いきなり！ステーキ事業のセグメント利益は前年同期に比べ大幅に増加しております。同事業が全社業績を牽引した結果、全社利益項目において黒字を達成いたしました。

これらの結果、第３四半期累計期間における売上高は12,201百万円（前年同期比13.6％増）、営業利益は203百万円（前年同期は91百万円の営業損失）、経常利益は218百万円（前年同期は90百万円の経常損失）、四半期純利益は149百万円（前年同期は186百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりです。

①いきなり！ステーキ事業

いきなり！ステーキ事業につきましては、引き続き調理技術、店舗サービス力の向上に取り組むとともに、期間限定商品の打ち出しをはじめ、コラボ企画による新たなお客様層の獲得に努めました。また、定期的に公式アプリにて会員様向け施策を実施することで新規会員様獲得に注力いたしました。

商品キャンペーンにつきましては、９月３日より牛一頭から僅か２kgしか取れない希少部位である、オーストラリア産『イチボステーキ』を期間限定で販売いたしました。

コラボ企画につきましては、７月17日よりアニメ『ハイキュー!!』とのIPコラボを開催し、限定ノベルティの配布や一部店舗にて店内装飾を行い、コラボメニューや限定グッズの販売をいたしました。

アプリ会員様向けの施策につきましては、７月と９月に肉マネークーポンが当たる『いきなりスロット』を実装いたしました。また、９月９日より新規会員登録されたお客様に、生ビール1杯が10円で利用できるクーポンを期間限定で配布し、あわせて、既存会員様には同期間の毎週水曜日に、お得なドリンククーポンを配布いたしました。

新規出店につきましては、７月７日に『いきなり！ステーキ福山駅家店』をオープンいたしました。

この結果、当第３四半期累計期間における売上高は11,644百万円（前年同期比13.6％増）、セグメント利益は1,389百万円（前年同期比31.3％増）となりました。

②レストラン事業

レストラン事業につきましては、季節限定メニューの販売やコースメニューを導入し、売上及び利益向上に努めました。また、『かいり』では、主力商品である『痛風鍋』が第102回ジャパン・フード・セレクションのスペシャリテ部門でグランプリを受賞し、８月17日より期間限定で記念キャンペーンを開催いたしました。

この結果、当第３四半期累計期間における売上高は504百万円（前年同期比14.8％増）、セグメント損失は75百万円（前年同期は60百万円のセグメント損失）となりました。

③商品販売事業

商品販売事業につきましては、「冷凍ワイルドステーキ」、「冷凍ガーリックライス」、「冷凍ハンバーグ」の他、ご家庭でもお店の味が楽しめるよう、オリジナルスパイスやソースを各大手モールにて出店販売いたしました。また、オッズ・パーク株式会社と卸売に関する売買基本契約を締結し、夏季の間、同社のチケット交換賞品に当社商品が採用されました。

この結果、当第３四半期累計期間における売上高は49百万円（前年同期比26.7％増）、セグメント利益は４百万円（前年同期は０百万円のセグメント利益）となりました。

④その他事業

その他事業につきましては、店舗FC開発、店舗サポート、事業開発及び購買に関する間接収益部門の事業となっております。

この結果、当第３四半期累計期間における売上高は３百万円（前年同期比47.3％減）、セグメント損失は95百万円（前年同期は76百万円のセグメント損失）となりました。

（２）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第３四半期会計期間末の資産合計は、6,126百万円となり、前事業年度末に比べて149百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が216百万円増加したこと、未収入金（流動資産・その他）が82百万円減少したこと及び工具器具備品（有形固定資産・その他）が81百万円増加したことによるものです。

（負債）

当第３四半期会計期間末の負債合計は、2,573百万円となり、前事業年度末に比べて14百万円増加いたしました。これは主に、買掛金が40百万円増加したこと、賞与引当金が30百万円増加したこと及び受入保証金（固定負債・その他）が45百万円減少したことによるものです。

（純資産）

当第３四半期会計期間末の純資産は、3,552百万円となり、前事業年度末に比べて135百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益を149百万円計上したことによるものです。また、2026年３月26日開催の第41期定時株主総会の決議に基づき、その他資本剰余金を85百万円減少、同額を繰越利益剰余金に振替し、欠損填補を行っております。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2026年８月14日の「2026年12月期 中間期業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想値の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：百万円）

	前事業年度 (2025年12月31日)	当第３四半期会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,995	2,212
売掛金	660	646
商品	151	141
貯蔵品	30	27
その他	578	473
貸倒引当金	△30	△30
流動資産合計	3,385	3,470
固定資産		
有形固定資産		
建物	608	618
その他	239	318
有形固定資産合計	848	936
無形固定資産		
のれん	177	158
その他	84	113
無形固定資産合計	261	272
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,120	1,120
繰延税金資産	58	58
その他	312	279
貸倒引当金	△11	△11
投資その他の資産合計	1,481	1,447
固定資産合計	2,591	2,656
資産合計	5,977	6,126

（単位：百万円）

	前事業年度 (2025年12月31日)	当第３四半期会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	819	859
未払金	280	253
未払法人税等	62	46
契約負債	24	22
賞与引当金	－	30
資産除去債務	21	13
株主優待引当金	86	80
債務保証損失引当金	68	68
事業構造改善引当金	1	1
その他	424	458
流動負債合計	1,787	1,835
固定負債		
長期契約負債	37	48
資産除去債務	405	409
事業構造改善引当金	2	1
その他	325	278
固定負債合計	771	738
負債合計	2,559	2,573
純資産の部		
株主資本		
資本金	10	10
資本剰余金	3,461	3,375
利益剰余金	△85	149
自己株式	△0	△0
株主資本合計	3,385	3,534
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	28	5
評価・換算差額等合計	28	5
新株予約権	4	13
純資産合計	3,417	3,552
負債純資産合計	5,977	6,126

（２）四半期損益計算書

（単位：百万円）

	前第３四半期累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
売上高	10,739	12,201
売上原価	4,260	5,018
売上総利益	6,478	7,182
販売費及び一般管理費	6,570	6,979
営業利益又は営業損失（△）	△91	203
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	0	0
協賛金収入	5	2
受取補償金	2	6
その他	12	9
営業外収益合計	21	20
営業外費用		
支払利息	0	0
支払保証料	16	－
為替差損	－	1
その他	4	3
営業外費用合計	20	5
経常利益又は経常損失（△）	△90	218
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産売却損	0	－
固定資産除却損	0	0
減損損失	32	14
その他	－	1
特別損失合計	32	16
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失（△）	△122	202
法人税、住民税及び事業税	59	53
法人税等調整額	5	－
法人税等合計	64	53
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△186	149

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2026年３月26日開催の第41期定時株主総会決議により、同日付で会社法第452条の規定に基づき、その他資本剰余金85百万円を繰越利益剰余金に振替し、欠損填補を行っております。この結果、当第３四半期累計期間において、その他資本剰余金が85百万円減少し、繰越利益剰余金が85百万円増加しております。

（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第３四半期累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	132百万円	150百万円
のれん償却額	14	18

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期累計期間(自　2025年１月１日　至　2025年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他（注１）	合計	調整額（注２）	四半期損益計算書計上額（注３）
	いきなり！ステーキ事業	レストラン事業	商品販売事業				
売上高							
外部顧客への売上高	10,253	439	38	7	10,739	－	10,739
計	10,253	439	38	7	10,739	－	10,739
セグメント利益又はセグメント損失（△）	1,058	△60	0	△76	920	△1,012	△91

（注）１．「その他」区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

２．セグメント利益又はセグメント損失の調整額△1,012百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．セグメント利益又はセグメント損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（単位：百万円）

	いきなり！ステーキ事業	レストラン事業	商品販売事業	その他	計	四半期財務諸表計上額
減損損失	30	1	－	－	32	32

Ⅱ　当第３四半期累計期間(自　2026年１月１日　至　2026年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他（注１）	合計	調整額（注２）	四半期損益計算書計上額（注３）
	いきなり！ステーキ事業	レストラン事業	商品販売事業				
売上高							
外部顧客への売上高	11,644	504	49	3	12,201	－	12,201
計	11,644	504	49	3	12,201	－	12,201
セグメント利益又はセグメント損失（△）	1,389	△75	4	△95	1,223	△1,019	203

（注）１．「その他」区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

２．セグメント利益又はセグメント損失の調整額△1,019百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．セグメント利益又はセグメント損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（単位：百万円）

	いきなり！ステーキ事業	レストラン事業	商品販売事業	その他	計	四半期財務諸表計上額
減損損失	13	1	－	－	14	14

（重要な後発事象）

該当事項はありません。